

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はあるが、実践し切れていない。	ホームの理念を利用契約時に本人と家族に説明している。日常生活の中で利用者一人ひとりの意向に合わせ、「笑顔と元気で」暮らし続けられるようなケアを目指し取り組んでいる。理念にそぐわない行動が職員に見受けられた時にはリーダーを中心に話し合い、日頃のケアに活かしている。	来訪者にも職員の取り組み姿勢を理解していただけるように見やすい場所に理念または目標を掲げられることが望ましい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はできていないが、行事の際地域の方にお越しいただいたり、区の一斉清掃の参加している。	区費を納め一斉清掃にも参加し、地域との繋がりが広がるように努めている。ホームの夏祭りや敬老会には区長、民生委員、近所の方も来訪したという。また、区長からの紹介で保育園との交流も来春から行う予定であり、音楽ボランティアとしてピアノの演奏の方もお願いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はホーム独自では行っていません。法人として取り組んでいく方針です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回運営推進会議は11月4日に開催されます。今後、定期的に運営推進会議を開催することにより、ホームのサービス向上に活かしていきたいと思えます。	1回目の運営推進会議を実施したところであり、その中で、今後、2カ月に1回実施することが決められた。参加者は家族代表2名、利用者代表1名、区長、民生委員、市介護保険課職員、地域包括支援センター職員、ホーム職員で、初回ということもあり会議の趣旨説明等に時間を割き、熱心な話し合いが行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問い合わせ・報告などはしていますが、伝達は行っていません。	介護認定の調査は家族同席の上で行い、家族の依頼を受け代行業務も実施している。市主催の認知症セミナーへも参加している。介護あんしん相談員の来所については開設したてでもありまだ行われていないが、今後、受け入れを検討していく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については理解しています。安全面に配慮しながら本人の意向、自由を優先してケアしています。	法人の方針として身体拘束をしないケアが掲げられており、拘束をしない3原則を徹底している。玄関は利用者の様子を見ながら施錠することもあるが、外出傾向の強い利用者については散歩にお連れし満足していただけるように対応している。拘束についての研修会はホームの年間計画の中で実施する予定である。	

グループホームウエルフェアあもり・星の家ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開所前、ホーム内で勉強会を行っている。入浴時の身体の観察や本人の様子などに注意を払うなどしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は持ていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	読み合わせを行い、疑問や不明な点等がないか確認しながらサインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回開催する運営推進会議で、意見・要望を表せます。現時点では未実施の為、今後意見・要望を頂いた時に反映をしていきます。面会時等、意見・要望を伺い反映させています。	意見や要望を表出できる利用者は三分の二ほどいるが毎日の申し送りでその内容を周知している。また、一人ひとりの生活記録、またはお便りを家族の元へ送付し意思疎通を図っている。家族の来訪については多い方で2日に1回あり、全員の家族に月1回は来訪していただくようお願いしている。家族会を9月の敬老会時に開催し、運営推進会議にも家族会から2名の方が選ばれている。	積極的に全体行事に取り組まれているのでプライバシーに配慮しながらホーム便りを四季折々発行され、利用者の生き生きとした様子を家族などにお知らせしたら良いのではないだろうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、リーダー会議、代表者が参加する全体会議を毎月1回ずつ行い、その機会を設けています。議題は検討し反映されています。	全体会議を月1回実施しており施設長も必ず出席し、処遇等についても話として上げ、その他の事項についても職員間で活発な話し合いが出来ている。また、人事考課制度に沿い、職員毎に目標設定を前・後期それぞれに行い、それによって個人面談を年2回実施し意見・要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標設定シートを元に代表者と面談を行い、勤務評価、目標設定へと繋げ、やりがいが持てるよう援助している。労働条件通知書や給与通知書など書式で提示し、労働環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、地区事業所ネットワークの勉強会に参加している。自主的に市民公開講座(認知症)の受講。OJTも互いに行っている。		

グループホームウエルフェアあもり・星の家ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あかね会(安茂里地区介護事業所ネットワーク)に参加。同業者との交流を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居判定前に事前面接を行い、ご本人と直接お話をします。また、ご本人の関係者からも聞き取りをし、困っていること、不安なことを明確にした上で、安心できる環境、関係を作る努力をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問や、ホームの見学をして頂き、ご家族の困っていること、要望を聞き取らせていただいています。入居後もご本人の様子を来所時や行事の際などに各担当者を中心にお知らせし、関係を構築しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人および家族との会話、ご本人の様子を確かめ、必要と思われるサービスの情報を伝えたりしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	環境を共にするものとして、ご本人の立場に立って、経験や能力を引き出せるよう心掛け実践しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時には電話連絡をして相談している。自宅の様子を見ることで安堵される方には、ご家族と共に外出していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的な働きかけはできていない。受容的。	ホームのある所の近隣地域に自宅のある利用者が多いこともあり、友人や知人の来訪が見受けられる。利用者の希望を聞いて来訪される知人もおり、ホームでは継続できるように支援している。理美容院については基本的にホーム内で済ませているが、希望があれば馴染みの所へ家族がお連れしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳の聞こえが悪いなど、身体的に抱える問題を説明し、お互いに受け入れられるような説明を繰り返している。		

グループホームウエルフェアあもり・星の家ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先の職員から情報提供を求められた時は答えているが、そのケースは1件のみ。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思い、希望、意向の把握はうまくできていない。場面場面において、本人優先でケアしている。	一部の利用者を除いては殆どの方が意思表示出来る状況であるが、日々の表情や行動を見て個々の生活の流れを把握し思いや意向を汲み取るようにしている。職員1人で1~2名の利用者を担当しているが、全職員で情報を共有するようにしており本人本位のケアが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報源としては、ケース記録、本人からの聞き取り、家族からの聞き取りですが、十分に聞き取れていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや気づいたことなどを職員間で共有することで把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの時間枠はうまく取れていないが、随時に検討し介護計画を作成している。	ケアプランの見直しは家族も交えて3か月に1度実施している。モニタリングは見直しの時期に合わせてたり状態の変化に合わせて行い、介護計画の継続・変更に繋げている。1か月に3名平均見直しを行うことにより3か月で利用者全員分が完了できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動、様子などを記録し、個別の工夫や提案などは口頭あるいはスタッフの申し送りノートで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や、特に本人が望まれた時には柔軟に対応しています。		

グループホームウエルフェアあもり・星の家ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各個の地域資源の把握はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望は大切にしています。職員側から促すことが多い。自由に医療を受けられる環境は整っている。	利用開始時に本人と家族の希望を聞くようにしている。法人関連の2ヶ所のクリニックと連携・協力体制を取りながら適切な医療が受けられるようにしている。また、24時間対応の訪問看護ステーションとも連携が密にとれるようにしている。歯科についても協力歯科医の往診が受けられようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況の変化に気づいた時は、職場内の看護師に相談し、必要時、主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急外来や入院時には、主治医の紹介状と共に介護情報を提供している。入院後は、病院の地域連携室と連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	1例、4月に看取りを行った。その時、方針共有はできていた。	重度化や看取りに対するホームとしての基本的な指針と看取り介護の支援内容が定められている。利用開始時に説明しその上で本人や家族の希望を聞き、意向に沿い最期まで生活していただけるように取り組んでいる。本年、開設早々4月に1人の利用者を看取り、職員全員で看取り介護について貴重な体験をしたという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡系統は準備できている。定期的な学習会は開かれていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時連絡網は用意し、避難経路は周知している。実際の訓練が未実施。地域の防災マップを用意できている。11月26日防災訓練(日中想定)予定。	11月下旬に日中想定で区長、消防署員、近隣の方の参加もお願いし防災避難訓練を予定している。防火管理者として元消防士の職員が在籍しているのでまず火を出さないよう日頃から細かいチェックを実施している。今後、夜間想定を含む防災訓練を年2回行う予定である。	

グループホームウエルフェアあもり・星の家ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい生活を支えるために振り返りをしながら、行っている。	呼び名は本人や家族の希望を聞き人生の先輩としての尊敬の念を込めて、苗字、名前にさん付けでお呼びしている。日々のケアの中でどのように接することが利用者一人ひとりにとって良いのかを考えつつ対応している。来年度からプライバシー保護の基本的な内部研修を実施する予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の表現、表出をうまく行えない方が多いので、食事など基本的な事柄に限定されるが、そこから働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的になりやすい所はあるが、その人らしさを尊重するために、希望を読み取ろうとしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗面、髭剃り、洋服選びなど本人と共に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査的なレクを行い、引き出すこともある。調理の下ごしらえ、味見、盛り付けを共に行っている。	お手伝いの出来る利用者は三分の一ほどであるが出来ることをしていただいている。家族等からの野菜の差し入れも多く食事形態も様々であるが調理を利用者と共に行い、利用者と職員と一緒に楽しく食事をしている。行事の時には季節によって工夫をした食事が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考えたメニューに沿っている。量、形態も個々に合わせている。水分摂取量は介護者側の望む通り取れていないので、工夫してゆく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後仕上げ磨き、チェックをすることを目標に行っている。		

グループホームウエルフェアあもり・星の家ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導することで、失敗を防げるよう努めている。また、尿意のある方は、トイレのサインが出たら、誘導している。	自立の方が半数ほどで、その他の方は一部介助である。また、殆どの方はリハビリパンツ使用で夜間ポータブルトイレ使用の方が若干名いる。排泄パターンの把握は排尿、排便、回数それぞれのチェック表で行っている。人前で失敗した時にはプライバシーに配慮しつつ居室やトイレで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、繊維質の食品を多くとって頂くようメニューの考慮と共に声掛けをしている。毎日の体操や散歩など運動にお誘いし、排便チェック表を使用し、便秘症の方には主治医から緩下剤などを処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯については希望に添えていない。入浴時は、本人が心ゆくまで入れるよう努めている。	基本的に週2回入浴している。全介助の方は若干名で、殆どの方が一部介助である。入浴を拒む方も数名いるが、どうしたら楽しく入浴していただけるかを職員同士で話し合い、誘い方を変えたり、季節によって入浴剤を変えたりと工夫を重ねている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく休めるように、定期的にリネン交換している。就寝前には安心して眠れるように、環境整備、光源の調整、落ち着きに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、作用、用法用量など、チャートに挟み込んだ薬情で個々に確認している。誤薬の起こらないように注意喚起している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全て把握はできていませんが、情報や本人の様子、希望からくみ取っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者全員で、ドライブやピクニックに行けるように、散歩や戸外で過ごす時間をすこしずつ増やしています。	車イスの方と歩行器の利用者がそれぞれ四分の一ほどで、杖の方が若干名という歩行状況であるが、天気が良ければ近隣へ散歩に出掛け、年間外出計画としてお花見、紅葉狩り、外食等が企画され出掛けている。また、日々の中でドライブを兼ねて出掛けることも度々ある。ホーム玄関前にはテーブルとイスが用意され、希望があればいつでも外で寛げるようになっている。	

グループホームウエルフェアあもり・星の家ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を持つことで安心される方には家族の意向もあり、お財布を持っていらっしゃいます。全員、お小遣いを預かっており、希望に応じて支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持ってこられ、自由に家族と会話される方もいます。電話、手紙の申し出の際は、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	乾湿度、光、臭い、色など、環境で不快な因子とならないようお掃除や空調利用、換気など行っています。季節感を感じて頂くため、共有部に季節の飾り物をしたりします。	全体的に広々としたスペースがあり廊下も広く、ホール兼食堂もゆったりとした造りで、ベージュ色の壁にも温かさが感じられる。冷暖房はエアコンで行われ、浴室にも配備されている床暖房が共用部分全体の暖房効果を果たしている。壁には近くの公園に出掛けた時の様子が貼られ活動の様子を見て取ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの準備もありますが、なかなか難しく、気の合った方同志、一つの居室ですごされることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル、いす、絨毯など本人と家族で相談したものを自由に持ち込まれて居場所を作っています。	各居室の壁、天井、カーテンの色が全室異なり、一人ひとりを大切にというホームの想いが窺えた。各居室には利用者の思い思いの物が持ち込まれ、自分が作った作品や家族の写真などが飾られていた。また、9月に行われた敬老会の時にスタッフから各利用者に送られたメッセージカードも見受けられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や共有部の手すり、トイレの手すりやレイアウト、洗面台やテレビの高さなど、できるだけ自力で安全に行えるようになっている。自室に目印を付けたりもする。		